



第4回「八雲が丘賞」を受賞した美術部の皆さんと表彰式後に記念撮影



2017年(平成29年) 6月30日

発行：東京都立大学 附属高等学校同窓会 〒152-0023 東京都目黒区八雲 1-1-2 桜修館中等教育学校内 編集：同窓会報編集委員会

第4回「八雲が丘賞」を美術部が受賞



美術部共同でデザインしシルクスクリーンでプリントしたエプロンと、新1年生が制作した切り絵作品。エプロンの制作費の一部には、八雲が丘賞記念品代が使われました。

第4回「八雲が丘賞」は、桜修館・美術部が受賞しました。表彰式は昨年9月12日に例年通り記念祭の閉祭式の中で行われ、都大附高同窓会から美術部の皆さんに、表彰状と記念品代10万円が贈られました。

この賞は、桜修館の生徒の優秀な部活動や課外活動に対して、同じ八雲が丘で学んだ都大附高同窓会から贈られるもので、過去3回

みなで完成させるひとつの作品 中学校、高等学校における美術部は、決して珍しい存在ではなく、むしろ文化系の部活動では定番ともいえる部の一つです。

「八雲が丘賞」は、旧制府立高、都大附高、桜修館の3校を結ぶ絆の一つです。この八雲が丘賞が契機となって、桜修館卒業生の「八雲展」出展が実現したりすれば、それもまた楽しいことと言えるのではないのでしょうか。

INDEX

- 第4回「八雲が丘賞」に美術部 1
- 第2回「ホームカミングデー」 2
- 「チーム桜修館」として 3
- 寄稿「八雲展今昔」他 4
- 寄稿「生物の生き残り戦略」他 5
- 第68回記念祭報告 6・7
- 同期会・クラス会・同好会 8・9・10
- 事務局インフォメーション 11
- 計報・会費納入のお願い 12



な制作活動が特長で、その中から多くの優れた作品を生み出しています。また部員がまとまって一つのことを完成させるのも、この美術部のいいところですよ。

「八雲が丘の3校の絆と美術の伝統」 八雲が丘には美術の伝統があります。旧制府立高の絵画班から美術部、都大附高の「美研」(美術研究会)。美術の道に進んだ卒業生も多く、何人ものプロを輩出しています。また、卒業生による美術展の「八雲展」は、今年第35回を数えるとのことですよ。

盛大に第2回「八雲が丘ホームカミングデー」開催

都大附史上唯一7クラスの第16期



昨年10月1日(土)、第2回「八雲が丘ホームカミングデー」が開催されました。この企画は、都大附高同窓会と桜修館同窓会の共催で、卒業後50年と25年を迎えた都大附高の卒業生と、桜修館の若い卒業生に、久しぶりに八雲が丘に帰ってきてもらうというものです。一昨年の11月に第1回が開かれ、昨年が2回目。都大附高16期と41期、桜修館2期の皆さんが、八雲が丘の「めぐろパーシモンホール・小ホール」に集まりました。



若さの桜修館第2期



校長先生の歓迎の挨拶

八雲が丘へようこそ

ホームカミングデーの歓迎式典は午前11時に開会。校歌斉唱、同窓会理事長挨拶に続き、桜修館・金田校長が「八雲が丘に流れる伝統と旧制府立から桜修館につながる絆を大事にしたい」と歓迎の言葉を述べられました。塩田PTA会長の挨拶のあとは、式典のメイン「八雲が丘に学んで」のストライドショー。参加者それぞれが八雲が丘に学んだ時代

を思い出していました。

式典終了後は、副校長先生の引率で桜修館の校内を見学。充実した諸設備に特に16期生からは驚きの声がありました。

盛大に懇親パーティー

校内見学の間に小ホール内はパーティ会場に。世話役の挨拶や乾杯のあと懇談に移り、各期の卒業生、桜修館の先生方やPTA役員、同窓会役員など、世代を超えた懇親の場となりました。



スライドショー

各組代表のスピーチに引き続き、全員で学生歌を歌い記念撮影へと進むころには、会場の空気は高校時代



副校長先生の案内で校内見学

25年ぶりのホームカミングデー

41期B組 辻(旧姓竹内) 紀子

高校を卒業して25年の月日が流れました。仕事に子育てに奮闘する毎日を送っているわたしたちにとって、高校時代の仲間とは年に一度の年賀状のやり取りが精一杯で、ほとんど会う機会がありませんでした。そんなときに、同窓会から「ホームカミングデー」にお誘いいただき、久しぶりに仲間との再会を楽しむことができました。

都立大学駅から学校に向

かう道からして懐かし、駅前の様子が変わったな、ここにカラオケボックスがあったな、郵便局はまだあるな、旭ペーカリーのパンがおいしかったな、たくさんさんの思い出が蘇ってきました。

桜修館中等教育学校の校舎見学では、玄関、教室、渡り廊下など、高校時代の面影がそのまま残っていて、本当に懐かしかったです。「わたしたちの通っていた

この校舎とよく似ているね。」と話していたところ、校舎の建て替えはしていないと説明を伺い、思わずみんな納得。廊下に置いてあるロッカーですらも「こんな感じだったよね。懐かしいね。」と会話が弾みました。また、新しく建てられた図書館が、校庭の横にあった昔の図書館のように部屋が丸い形になっていて、こんなところにも面影が残されていると嬉しく思いまし

「チーム桜修館」として

都立桜修館中等教育学校長
金田喜明



都立大学附属高等学校の同窓会の皆様におかれましては、ますます御清祥のことと存じます。都立桜修館中等教育学校の校長に赴任し、4年目を迎えました。

昨夏、後期野球部が東京大会でベスト16まで進出した際には、球場まで多くの同窓生の皆様にも応援に来ていただき、誠にありがとうございました。桜修館と都大附との関係が、野球の応援を通してより密接になった気がして嬉しく思っております。

桜修館の今春の大学合格状況からお知らせいたします。6期生155名のうち39名が現役で国公立大学に合格いたしました。その中

で、東京大学に2名、京都大学に1名、一橋大学に6名、東京工業大学に2名が合格しました。京都大学には既卒者でもう1名合格しております。また、難関私立大学には74名が現役合格いたしました。早稲田大学に39名、慶應義塾大学に20名が合格しました。さらに、いわゆるGMARCHには121名が現役合格いたしました。

一方、今春の適性検査では、昨年度より倍率はやや下がったものの、それでも6・18倍の高倍率を突破した男子75名、女子85名が第12期生として入学いたしました。

さて、平成29年度、本校は東京都教育委員会から姉妹校交流推進校と理数研究校の指定を受けました。姉妹校につきましては、4年生で実施しているニュージーランドの語学研修で、



4戦連続完封勝ちでベスト16進出の桜修館チーム(手前)

昨年から受け入れをお願いしているウェリントンにある学校と締結したいと考えています。今年の夏も本校生徒がお世話になりますが、秋には相手校の生徒も来日して、本校で授業等に参加してもらい、相互の交流を深めていく予定です。

を開催するなどして、理数に興味・関心をもつ生徒の能力を伸長するとともに、科学的に探究する能力や態度を育成したいと考えています。また、科学の祭典や各種科学コンテスト等への出場や、各種サイエンスセミナーへの参加も積極的に行っていく予定です。

現在進められている学習指導要領の改訂は、従来の学習内容の変更にとどまらず、指導方法や学校の教育課程の編成にまで踏み込んでいるのが大きな特徴です。これに対応するためには、教員一人一人が力を発揮しなければならぬことはもちろんですが、合わせて同窓会やPTA、地域の方々にも学校の教育活動に参加していただき、「チーム桜修館」として生徒たちの成長を支えていく必要がありますので、御理解・御協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

た。他にも、クラスマッチや記念祭など今も続いている行事があるようで、学校名が変わっても、我が母校の伝統がしっかり受け継がれていることを誇らしく感じました。

懇親会では、高校時代の話や近況報告で盛り上がりました。知らなかっただけで、今近くに住んでいたたり、意外な共通点があったり、それぞれが充実した人生を歩んでいて、お互いいい刺激をもらいました。何十年も会っていなかったにもかかわらず、すぐに元の仲間に戻ってしまうのは本当に不思議で、高校時代を一緒に過ごしたことは一生の財産になっていることを改めて実感しました。参加したみんなが楽しんでます。



「ホームカミングデー」では、わたしたち41期だけでなく、先輩や後輩の方々ともお話しすることができ、とても有意義な時間でした。

今回、残念ながら仕事や家庭の都合で参加できなかった友達も多く、当日の様子を報告するの口を揃えて「行きたかったな」「次回はずいぶん」と返信が来ました。この「ホームカミングデー」をきっかけに、また同期のみんなが集まる約束をしました。卒業して25年の節目に、新たな輪がどんどん広がっていくことが今からとても楽しみです。

「ホームカミングデー」を開催するにあたり、企画・運営していただいた同窓会幹事の皆様には心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。この日に感じた同窓の「絆」をこれからも大切にしていきたいと思えます。

寄稿

八雲展今昔

内野滋雄・1期

ご承知のように八雲展は毎年5月に大崎のO美術館で行っている美術展です。

この美術展は1929年(昭和4年)に創立された府立高等学校(尋常科4年、高等科3年)の絵画班が毎年記念祭の折に行っていた絵画展が始まりです。

当時の八雲が丘は豊かな自然に溶け込んでいたようで、北には雑木林が広がってテッサンには事欠かなかったそうです。

戦争、終戦、学制改革の中で、絵画班は府高美術部と名称を変え、その流れは新制の都立大学附属高校美術部(美研)に引継がれて活発な活動が続くようになりました。

その発端は1979年(昭和54年)、府立高等学校創立五〇周年記念の行事の一つとして行われた第一回八雲展です。

1979年1月26日から、当時の東急百貨店日本橋店



6階画廊で6日間開催されました。出品者は松岡正雄(遺作)、石川道雄(遺作)、島岡達三、岡弘、岡本半三、塚原政恒、山口良介、小玉貞二、藤波哲太、山下肇、朝長康郎、平部正博、矢沢弥三郎、草下孝也、高島文三、甘田早苗、永井保、喜多智慧夫、内野滋雄、加藤武利、物故者2名を含め20名でした。

を終えることができました。第2回以降は1年半か2年の間隔で行いましたが、大先輩から「俺達は先が短いから毎年やれ」と言われ今年第35回を迎えることになりました。

寄稿

学生歌の伴奏

佐藤文行・17期
(二期会会員)

都立大学附属高校の中には美術大学出身者も多く、会場ではレベルの高い展覽会と言われております。

また、東京都立大学出身の方が年々増え、八雲展を支えておられ、プロ級の方も多く、今では首都大学東京の方も入会されメンバーの拡がりは喜びです。

府立時代の校旗、校章、校歌を継承している桜修館中等教育学校の参加者を待ち望んでいる此の頃です。

僕は旧制時代からの寮歌、学生歌、記念祭歌を継承してゆく為に、旋律と歌詞だけの楽譜に、友人の助けを受け、伴奏を付ける作業を推進してきました。

2010年に同窓会が発行した「校歌、学生歌・寮歌・記念祭歌集」DVD制作の計画時点では、校歌、学生歌「青春といふ」、文乙歌「いざ友」の3曲には、同窓会がプラスバンド編曲のスコア(総譜)を発注していま

したが、それら3曲を含む11曲は「太鼓を中心に唄う予定」とのことでピアノ伴奏は考慮されていませんでした。

しかし歌は総勢百人の大合唱です。歌唱指導と指揮を任せられた僕にとって、収録前の練習時に《ピアノの応援》は不可欠でした。そこで前同窓会長にピアノ伴奏の必要性を訴えて了解を取り、作曲家の親友に伴奏の演奏料のみで「ピアノ伴奏譜の作成と練習・本番のピアノ演奏」を依頼し

校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌集

《残部僅少》



母校の閉校を記念して、2010年に同窓生100人の参加により収録されたDVD。

< 収録内容 >
全14曲(33分) 歌詞字幕、カード付
吹奏楽：校歌(嗚呼西山の)、学生歌(青春といふ)、文乙歌(いざ友)
合唱：校歌、学生歌(2曲)、文乙歌、第五寮歌、第八寮歌、新制第1回、第2回、第7回、第17回記念祭歌、乾杯の歌

頒布価格1,500円 (送料とも)

お申し込みは同窓会事務局へ
(「同総会への連絡方法」参照)DVD到着後、指定銀行口座にお振込みください。

また。練習は当初計画の2日を3日間に増やし、収録当日を含め都合4日間になりました。覚悟の上でしたが僕のギャラはなく、伴奏譜の制作費など費用はすべて自前でした。

このたび八雲が丘学友会からの依頼を受け、旧制府立高校OBの希望も取り入れて、空戸会長と追加分6曲を選定。さっそくピアノ伴奏部分の作曲に取りかかりました。6曲は旧制時代の歌を中心に、理乙歌「流るる月日」、旧制第九回記念祭歌「見よやローマの」、旧制第十回記念祭歌「爽快かな」、旧制第十一回記念祭歌「銀扇空に」、旧制第十七回記念祭歌「八重なせる」、そして新制第九回記念祭歌「それ今天地は微笑せり」です。

各時代の社会情勢のなかで我らの先輩たちが何を考え何を感じとっていたのかをうかがい知ることができると深い思いの曲ばかりです。特に終戦翌年の「八重なせる」に至っては《学生歌の勇壮・豪快》が全くなく、戦いを終えたばかりの傷ついた勇士のまなざしさえ想像せ、その心情を察するに涙を禁じ得ません。また1957年の「それ今天地は微笑せり」は全く古さを感じさせない出来でプロの作品のようです。歌の流れが自然で伴奏もつけやすかったため、今後は人気が出ることでしょう。

またまた伴奏付けたい曲は沢山あります。楽曲の継承には、何といたっても伴奏付楽譜と録音が必要です。

寄稿

生物の生き残り戦略

伊藤 (旧姓原田) 佑子・12期

都立大学附属高校卒業後55年、相模原市民になって40年。定年退職を期に、市の自然環境観察員制度に登録して3年を過ぎた。

2001年に始まったこの制度の活動の一つとして、地域の自然環境の指標となる動植物の観察・調査がある。現在は、市内全域を1km四方に区切り、約1000人の市民ボランティアが担当している。昨年度の調査対象はタンポポ。在来種のタンポポが担当区域のどこにあったかを記録し、花粉を採取して顕微鏡観察で在来種かどうかを確認した。

してきた私にとって、肉眼で見える動植物の観察・調査は、改めて新鮮な体験だが、難題も沢山ある。

まず、名前が覚えられない。細かいものの識別が困難。地面近くの花や実を観察する際の膝の屈伸が、だんだん辛くなる、等々。それでも続けられるのは、忍耐強い指導者やスタッフと仲間がいるからだと思う。

さて、タンポポの話に戻ろう。タンポポに在来種とセイヨウタンポポ(外来種)があることは周知の事実だが、

が、通常、頭状花を包んでいる総苞片の形と向きを確かめて両者を区別する人は少ないと思う。顕微鏡観察では、染色体の対の数が2(2倍体)の在来種の花粉の大きさは均一だが、3倍体の外来種は不均一に見える。

調査をしていると、外形上は在来種に近いのに不均一な花粉を持つものがかなりあった。雑種である。

在来種は野原に群生し(写真a)、開花期間が短く、必ず受粉して種を飛ばし、夏場は休眠して周囲の夏草が

枯れた後で芽を出す、外来種は単為生殖でしか種を作らないので、単独でもよく、道端の日の当たるところに1年中次々と新しい花を咲かせる(写真b)。

まった。本来クローンの外来種も、時に在来種に受粉して雑種を作るようだ。生物の基本的な生き残り戦略がここにもあった。

人為的な環境の変化が在来種の生育場所を奪った結果、外来種が目立つようになってし



2014年8月5日、夫と長男と共に、70歳で初めての富士登山

寄稿

12期修学旅行の動画 56年振りの復活

渡辺知之・12期

卒業55周年の同期会で、スライドショー作成を企画し、古い写真を集めたところから、えらい掘だし物が発掘された。同級生の中村氏の自宅倉庫から高校修学旅行の8ミリが見つかり、彼が約40分の動画DVDにしてユーチューブにアップロードしてくれた。動画をみると白黒ではあるが、高校生にしてはアングルもピントもなかなかの出来栄である。撮影は「修学旅

行実行委員会写真班」とある。確かに当時の修学旅行の懐かしい姿である。当時、山陰の町を歩く人の多くは着物姿であり、風情があるが、その中を高校生連が数人のグループで寛いで、まとまりなく歩いている姿がいかに都立らしく、懐かしいものであった。中村さん、有難う。動画URL: 311G9N4RRnI



列車の中の麻雀は牌を混ぜるのが一苦勞だった



写真a 自宅近くの雑木林の隅に群生する在来種タンポポ



写真b 住宅地の駐車場や舗装道路で、一年中次々に花をつけるセイヨウタンポポ



第68回記念祭、テーマは「江戸」



いよいよ開場

昨年9月10、11日の両日、第68回記念祭が盛大に行われました。開場を心待ちする見学者が、予定時刻の30分ほど前から並び始めるという相変わらずの人気ぶりですが、アメ横状態でトコロテン式に押し出され見学者もままならなかった一時期から比べると、随分



タテ看ストリート

落ちてきていると感じられます。今回もB棟201講義室にて同窓会主催の『八雲が丘の集い』の展示を例年に倣って行うとともに、写真パネルや80年の歴史を伝える資料等の展示とDVDを終日放映致しました。また2日目の午後には階コンコースにて、恒例となっている旧制府立高校同窓会、都立大附属高校同窓会、桜修館PTAの有志で「校歌・学生歌・賓歌・記念祭歌」の斉唱イベントを行いました。これまででは少なくとも5、6名



少々の雨など吹き飛ばす呼び込み隊の熱気



パフォーマンスではありません、単なる偶然です



早く早く、もう来ちゃう！



来年もガンバレ、みんなもガンバレ



これも伝統、階段告知



コンコースに出現した「日本橋」と「高札」



弓道部による「弓人体験」



1年生の展示

ほどの参加をいただいていた旧制府立高校の同窓会を代表する『一土会』からの参加者が今回は3名にとどまったことは、ある意味でショックな出来事でした。
前号の同窓会報、さらに今号と2度にわたり寄稿された17期・佐藤文行氏が、我々が受け継いできた『歌の財産』を『これからの人』に継承するための具体案を提唱し、さらに喫緊の課題としてそれを実践せねばならない旨の提言をされました。確かにのんびりしてはいられない時期にきています。



近寄ってみれば…段ボールと紙コップの労作



今回のプログラム

「校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌」を歌うイベントは、今年の第69回記念祭でも行う予定です。ぜひご参加ください。



校門から100mのメモリアル



「日本橋」上での学生歌斉唱、皆さまも今年の9月には是非ご参加を

同期会・クラス会・同好会レポート

4期生の集い2016

原稿締め切りの関係で約1年前になるが、「4期生の集い2016」が平成28年6月10日に原宿のクラブ水交で開催された。総勢31名が出席。

逝去された方々や、会員の移動状況、これからの予定発表及び会計報告の後、A組八木信忠さんの挨拶は戦時中はこの場所に焼夷弾が投下されたお話。

引き続き乾杯。大いに飲み、大いに食べ、大いにしゃべって2時間はあっという間に過ぎた。記念写真を撮影し、アカペラで校歌・寮歌を合唱。喜多先生の思い出に花が咲いた。次回も同期会、場所にするかと決定し散会した。

なお、今回の案内状発送数は102通で、回収率は90%弱。スマホ普及のせいや、会員のメールアドレス保有者は、37名に増加した。

(文責・田中誠一郎)



第12期卒業55周年記念同期会

日時：2017年5月9日（火）
会場：神保町「如水会館」

5年に一度を定例にしている12期同期会ですが、卒業後55年を迎え38名が参加して旧交を温めました。今回は鈴

木貞男さんが20分強の動画入り・音楽入り・字幕入りのスライドショーを作成して上映、大喝采となりました。幹事が持ち寄った写真、卒業アルバム、そして発掘された修学旅行ビデオが監修された力作でした。数人の初参加者も含め同期会とそれに続くクラス会を楽しみました。

(渡辺知之・記)



第17期同期会

やや旧聞となりますが、2016年4月23日に17期の同期会が渋谷エクセルホテル東急で開催されました。我々17期の同期会は1889年に第1回が開催され、その後第2回、第3回がほぼ10年おきに開催され、今回が第4回目になります。第3回の前回同期会から5年5か月振りの開催でした。幸い69名という多くの懐かしい方々が集まり、大変楽しい会となりました。乾杯が終わるとたちまち歓談の渦となり、過去の同期会の様子やその当時の都



高周辺の風景のDVDも撮影しましたが、皆さん話に夢中であまり見て頂けなかったようです。

記念撮影のあと寮歌・記念祭歌・校歌を4曲ほど合唱し、盛会裡に閉会しました。引き続き近くの居酒屋で二次会を開催しましたが、皆さんまだまだ話足りない様子で、52名という極めて多数のご出席を得、幸い予備の部屋も確保しておいたので事なきを得ました。二次会も大いに盛り上がりまことに充実した一日となりました。

(D組・中島直文・記)



第25期還暦合同同期会

2017年4月1日土曜日、第25期卒業生全6クラスによる還暦合同同期会を開催いたしました。ご臨席頂いた恩師の皆様は、久野猛先生、春山秀雄先生、吉田夏生先生。参加人数は総勢127名となりました。各クラスの幹事数名からなる合計30名の大幹事団を

前年春に結成し、企画を開始。これまでの同期会のイメージを一新する斬新な企画を立案実行いたしました。お座敷列車「宴号」を借り切って上野駅から品川駅まで普段通る事の出来ない路線で近郊をめぐる、満開直前の桜を肴にクラス別に車両内の懇親会でまずは大いに盛り上がりました。

その後品川プリンスホテルメインタワー17階オパールの間に移動し、今度はクラスの隔たりなく、互いの再会を祝福し合い、若き日の思い出話に花を咲かせました。さらに二次会には83名が参加し、同ホテル最上階のトップオブ品川で美しい夜景を眺めながら同期会を無事締めくめることが出



同期会・クラス会・同好会レポート

来ました。

本同期会の開催と成功にあたっては、日本旅行様、J R東日本様、品川プリンスホテルのスタッフの皆様の一方ならぬご尽力によるところが大きく、心から感謝を申し上げたいと存じます。

(幹事団代表、向谷実・記)

第26期B組クラス会

僕のA組は今まで一度しかクラス会を開いていない。それに比べて隣のB組は毎年開いている。高校時代の文芸部のメンバーのほとんどがB組だったつながりで、今では毎年B組のクラス会に出さずともらっている。

数年前に初めて参加した時は、凶々しい僕も気が引けていて、当然一次会で帰るつもりであった。久々に会えば当たり前だがみんないい年のおっさんとおばさんだ。高校時代の美女も今や老眼。最初はオトナの会話から始まるのだ。しかし飲むほどに一緒にいるみんなが昔のみんなに見えてきて、また徐々に昔の記憶が戻ってきて、いつの間にか隣の組なのに実に居心地の



良い場所が変わってしまった。そして意に反して初回から2次会突入。

翌年以降もB組クラス会にお誘いをいただいたが若干躊躇があった。でも行くと同じパターンで思いつきり楽しい。何度か参加する中で、有難いことにB組の皆さんから言われた。「卒業して40年もたった何組でも関係ない。よそ者ではないから是非来てくれ」。実は密かに感動した。単純な僕はこの言葉を素直に信じて今後もせっせと行くと思っている。

いつも幹事をやってくれる大友さん、勝又さん(旧姓)ありがとう。藤原さん(旧姓)提案の学年合同還暦祝いを今後進めようと思っている。

(26期A組・渡辺直哉・記)

第35期同期会

日時：2017年3月25日(土)

参加者：約70名

35期は、50歳を迎えたことを記念して、我が母校の跡地にできたためぐろパシモンホールにあるレストラン「Yakumori」にて同期会を開催しました。

卒業後、大規模な同期会をほとんどしておらず、今回の同期会の連絡もフェイスブックやメール中心での呼びかけになりましたが、それでも同期生の約

3割の参加があり、会場は人であふれかえっていました。

また、クラス担任だった春山先生、中里先生、加藤先生にもご出席いただけました。



今回の幹事を務めたB組出身で水泳部の角田さんによる元気な開会の挨拶、続いて同窓会35期理事による(今後の同期会の充実のための)連絡先確認のお願い、そして担任団を代表して当時学年主任だった春山先生による乾杯の挨拶で、歓談への運びとなりました。

約30年ぶりに再会した人もたくさんいました。一見「この人誰だっけ?」と思う人、昔とほとんど変わらないう人、様々でしたが、会話をすると、在学中の話題の他、仕事・子育てなどの現状を語っても、不思議と在学当時に戻ったような感覚になりました。

3時間、絶えることなくあちこち

らで会話・笑い声があり、会の最後には「次は還暦、1泊旅行を企画しましょう」という話も出ました。さらに二次会に参加した人も多数という大盛況で幕を閉じました。(石川恵子・記)

機研OBOG懇親会2016

「毎年鉄道記念日(10月14日)に一番近い土曜日の午後で開催する」と決めてあるこの会は、機械技術研究会に在籍した卒業生によって続けられている。

平成28年も10月15日午後に市ヶ谷のイタリアンレストランbunobonoで開催され、1期生から22期生まで18人が集合した。諸般の事情により、4名ばかり欠席となったのは残念であった。

しかしながら毎年地球の反対側(ラジル)から参加する3期生の鈴木健太郎氏には脱帽である。

代表者(毎年交代)による挨拶と乾杯発声により懇親会が始まる。ある程度飲食と雑談が過ぎた



同期会・クラス会・同好会レポート

（▶6面から7へ）

とごころで、写真やビデオの発表。或いは持参した鉄道模型の運転など多種多様な発表に質疑応答の花が咲く。

2時間たっぷりすぎたところで記念撮影をしてお開きに。でも有志の面々は市ヶ谷駅そばで二次会を楽しんだ模様。

（4期・田中誠一郎・記）

放研の集い2017

4月5日10時半、東京メトロ東西線門前仲町駅に放研OB・OG（配偶者を含む）13人が集合。

今回は8期の本橋紀子さんの手配により「春のうららの隅田川でお花見」ということで、釣船橋そばの船着き場に向かい早速乗船。我々だけの貸し切り状態で定員の4割程度。豊洲運河を経て中央大橋のそばから隅田川に入り上流に向かう。絶好の青空に花は九分咲き、平日でも岸には結構な花見の人が出ていた。

料理を運ぶ合間にCAによる行き交う船や両岸の風景の説明を聞きながら



熱々の天ぷらに舌鼓。

永代橋・清洲橋などの隅田川に架かる橋の多様さを楽しみ、言問橋を過ぎたところで折り返し地点だが、ここで小半時休憩、船の屋上に出て記念撮影。桜橋で折り返し往路をそのまま下り、中央大橋を越え佃島を一寸眺めて豊洲運河に戻り、出発点に無事到着。

門前仲町で深川不動に参拝、近くの喫茶店で雑談の後解散した。

（4期・田中誠一郎・記）

硬式庭球部ふかし会

会場：桜修館、パーシモンホール レストラン「YAKUMOMI111」
硬式庭球部のOB会は顧問の綱島窮先生を偲び、ふかし会と称している。ふかし会は暫く活動休止状態となっていたが、有志の努力により、7年前から活動を再開した。

2014年からは母校（現東京都立桜修館中等教育学校）のテニスコートが開放されたことから、毎年夏にテニス練習会、秋にテニス大会・懇親会を開催している。昨年は11月26日にテニス大会と懇親会を開催し、テニス大会には13名、懇親会には20名の方々に参加頂き、楽しい一日を過ごした。

参加者は高齢者が多く、往年の動きには程遠い方もチラホラと見受けられ

だが、若い者には負けないと云う気持ちでヒシヒシと伝わって来るプレー振りは素晴らしいかった。パートナーを替えつつ、現役時代を彷彿させるプレーでゲームを楽しんでいる内に、4時間はあっという間に過ぎてしまった。

夕方からはパーシモンホールに場所を移し懇親会を賑やかに開催した。

懇親会ではテニス大会の表彰式に引き続き、美味しい食事をしながら現役時代の強化練習や合宿などの昔話に花を咲かせ、その後全員で学生歌、文芸歌、記念祭歌等を熱唱し、最後は校歌を歌ってお開きとした。

現在は10期から21期の60数名の名簿が整理されているが、今後は以降の年代、更には桜修館との繋がり等も模索して、より楽しい会として拡げて行きたいと考えている。

会報をご覧頂き、是非参加したいと思われた方は、中尾宏行（16期）までご連絡下さい。連絡先（nakao@bf.mbn.or.jp）



生物部OBOG「ミジンコ」会

日時：2017年2月3日（金）
会場：めぐろパーシモンホール

「YAKUMOMI111」
参加者：23名

数年ぶりの「ミジンコ会」でした。最古参は9期で、18期までが参加してくれました。当初予定していたキッチンに入りきらないというので急ぎょ会場を探し、3日前に本会場にたどり着きました。会場変更の通知が徹底せず、元の会場に行ってしまった人もいましたが、予定時間の2時間をたっぷり歓談できました。最後に校歌を斉唱し童心？に帰ってお開きとなりました。お開きとなりまして、余韻が冷めず、都立大学駅付近でメートルをあびていた方々もいたようです。

次回ももっと若いOBOGにも参加を呼び掛けるつもりです。

（14期・川田秀文・記）



次号は来年6月30日発行予定です。原稿メ切り4月20日。

事務局インフォメーション

●2016年度事業報告

2016年度は、会計年度変更後初めての、昨年4月から本年3月末までの12か月間でした。会報の発行は、2015年度版が2016年1月、2016年度版は7月に発行し、いずれも9,000部を印刷、配布しました。会報発送と会費収納業務の委託先の変更により、経費の圧縮を図りました。同窓会が管理している会員名簿は、総数14,350名のうち住所判明者は8,500名弱です。

第68回記念祭では、例年通り同窓会ルーム「八雲が丘の集い」を出展し、合唱イベント「校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌を歌おう」を実施しました。第4回「八雲が丘賞」には美術部を選出、記念祭閉祭式で賞状・記念品代を授与しました。10月1日「第2回八雲が丘ホームカミングデー」を成功裏に実施しました。今年度中に第3回を開催するとともに、第14期より前の卒業生を対象とする特別ホームカミングデーを実施予定です。八雲が丘学友会の会合は年4回開かれ、正式に発足した桜修館同窓会からも役員が出席することになりました。学友会の事業として、桜修館開校10周年の記念に校舎外壁にブロンズ製校章レリーフを寄付、取り付けました。

●2016年度決算報告

前年と比較して赤字幅を大幅に圧縮しました。1,000人を超える会員から会費の納入をいただき、会費収入が200万円を超えたことと、支払い手数料をはじめとする経費の圧縮に努めた結果、経常損益の赤字が29万円弱となりました。支出の中心は会報発行費で発送費を含め約180万円です。今後十分な同窓会活動を保証するためには、会費収入100万円増、500名の会員の会費納入増が必要です。会員の皆さんの協力をお願いいたします。

●2016年度の会議ほか

2016年

- 5月13日 2015年度会計監査
- 5月21日 桜修館校舎外壁に校章レリーフ取り付け工事
- 5月28日 八雲が丘学友会会議
- 7月16日 2016年度上期「理事・監事・評議員会議」
- 9月10・11日 第68回記念祭「八雲が丘の集い」出展
- 9月12日 第4回「八雲が丘賞」表彰式
- 9月17日 八雲が丘学友会会議
- 10月1日 第2回「ホームカミングデー」
- 12月17日 八雲が丘学友会会合

2017年

- 1月29日 2016年度下期「理事・監事・評議員会議」
- 2月18日 八雲が丘学友会会議
- 3月30日 会報編集委員会

●2017年度役員

- | | |
|--------------------|------------|
| 理事長 | 穴戸 迪武(13期) |
| 常務理事・会報編集委員長 | 須田 大春(8期) |
| 常務理事・事業担当 | 佐々木浩二(15期) |
| 常務理事・会計担当、ホームページ担当 | 北原 久利(18期) |
| 常務理事・名簿管理担当 | 石川 恵子(35期) |
| 監事 | 養原 利憲(11期) |

【表Ⅰ】2016年度貸借対照表(財産目録)
2017年3月31日現在

科目・摘要	金額(単位:円)
1、資産の部	
現金及び預金	
現金	0
みずほ銀行普通預金	2,296,409
みずほ銀行定期預金	5,004,995
ゆうちょ銀行当座預金	3,134,516
ジャパンネット銀行普通預金	1,135,478
現金及び預金計	11,571,398
資産計	
11,571,398	
2、負債の部	
未払金(理事長立替未払金)	20,677
負債計	20,677
3、正味財産の部	
前期繰越正味財産	11,839,164
当期正味財産増減額	-288,443
正味財産計	11,550,721
負債・正味財産計	11,571,398

【表Ⅱ】2016年度正味財産増減計算書
2016年4月1日～2017年3月31日

科目・摘要	金額(単位:円)
I、経常収益	
1、受取会費	2,017,000
2、DVD等販売収入	3,000
2、利息収益	1,251
経常収益計	2,021,251
II、経常費用	
1、会報費	
会報原稿作成費	132,840
会報印刷製本料	784,426
会報通信運搬費	857,676
会報費計	1,774,942
2、ホームカミングデー費	
懇親会費収入	-579,000
懇親会費支出	480,435
案内送付先作成送付費用	61,277
会場等賃借料	78,400
ホームカミングデー費計	41,112
3、記念祭費	
通信運搬費	1,444
雑費(表彰金等)	142,655
記念祭費計	144,099
4、経常管理費	
通信運搬費	39,618
支払手数料	229,510
会議費交際費	68,180
消耗品費	9,317
雑費	2,916
経常管理費計	349,541
経常費用計	2,309,694
当期正味財産増減額(経常損益)	-288,443

監査報告:

財務諸表、帳簿、証憑等を精査し、上記決算書に誤りがないことを確認します。

平成29年5月22日

監事 養原 利憲

府立高校旧友会の解散

「府立高校旧友会」が、2月1日に発行された同年会報最終号をもって解散することになりました。

旧友会は「府立高等学校同窓会」が活動停止したのを受けて設立され、2013年5月に府立高校の卒業生有志および卒業生の遺族計154人の加入でスタートしました。総会の開催、会員の動向を伝える年4回の会報の発行が活動の中心で、バスツアーや講演会など、会員参加のイベントも何回か開催されました。しかし、会員数も発足時から30名ほど減少し、会報最終号によれば「会員の老齢化はどうしても避けることができず、原稿も集まらなくなってきたため、甚だ残念ながら会報の発行停止とともに、旧友会も解散を決定せざるを得ない次第です」とのことです。

なお、旧友会規約により解散時の残余資産は、八雲が丘学友会に寄贈されることになっていきます。



（元の講堂跡のめぐるパーシモンホールのレストラン）に、2期・吉松安宏先輩から21期まで、さらにお茶大卒の村上美紗子先生、旧制の大岡（忠一）夫人和子さま



UMO111のび、YAKの没後30年を

30年ぶりの再会へ齋会

昨年10月16日、齋正子先生が顔をそろえ

4期・田中誠一郎君が当時撮影した遺影に先生のお好きな秋の七草をそなえ、世代、シエンダーを越えた先生の個と理想へのまなざしを語り合いました。



準備にあたってくれた各期の世話人、空戸同窓会理事長に感謝します。熱烈な広島ファンの13期・久米宏君は、広島優勝のため球場から遙拝でした。

（文責・4期・小中陽太郎）

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます

国語	渡部忠雄 先生		2017年
国語	相馬庸郎 先生		2015年9月
国語	難波喜造 先生		
期・組	旧姓		
1A	門倉 幸雄		
2A	粟屋 忠		2005年11月13日
2A	鈴木 幸邦		1999年
2B	木村 一郎		2015年10月29日
2B	平岩阿佐夫		2017年3月20日
2C	栗原 昭文		2012年12月17日
2C	松下 宏		2016年9月1日
3C	柳井 満		2016年2月1日
5B	高橋 清彦		2017年3月4日
6C	森 正武		2017年2月24日
7C	脇 光郎		2008年4月23日
8B	松田 義郎		2016年11月17日
8C	草薙 尚夫		2016年5月23日
9C	金澤 宏		2015年10月20日
10A	五十嵐邦日子		2006年4月
10A	片岡 修		2007年4月
10A	徳良 次郎		2015年11月22日
10A	我妻 源一		2013年10月
10B	秋吉 和夫		2005年10月27日
10B	吉原 純一		2015年1月22日
10C	江村 洋		2005年11月3日
10C	菅野 次彦		2005年10月4日
10C	田邊 健介		2014年3月
10C	山屋 瑛夫		2014年9月15日
13C	金子 紘一		2016年10月5日
13C	牧原 憲夫		2016年7月20日
14A	瀬川 信雄	小池	
16A	小島 滋雄		2012年1月
16A	藍 早瀬	北原	2015年6月16日
16C	伊藤 仁久		2008年1月5日
16C	菅 洪二		2007年5月10日
16C	福田 哲也		2015年2月1日
16D	大瀬 尚信		
16E	荒井 慧		
16E	才川 恵子	奥山	
16F	鈴木 政久		2003年11月
16F	松田 健三		
16G	高地 武夫		2015年
16G	小平 精司		2009年7月25日
16G	鈴木 俊男		2016年6月14日
19F	福田 恵介		2015年
22F	横尾 幸子		2015年1月
28A	鈴木 一成		2016年7月

同窓会事務局に連絡のあった方のみ掲載しています。前号のこの欄に間違いがありましたのでお詫びして訂正いたします。×藤 正敏氏 → ○藤正 敏氏、岡瀬長世氏の旧姓欄に「武市」とあるのは、池澤洋子氏の旧姓の間違いです。

事務局インフォメーション

会費2000円 納入のお願い

今回納入をお願いするのは、2017年度の会費2000円です。

同窓会の財政基盤を安定させ、より幅広い会活動を繰り広げられるよう会員の皆様のご協力をお願いします。

次の方は納入していただく必要はございません。

①特別会員の先生方 ②かつて終身会費を納入された方（現在は、終身会費は廃止されています）

①②の方には、会費払込取扱票が同封されていません。万一同封されていたら間違いですのでご容赦ください。事務局までご連絡いただくと助かります。

<会費納入の方法>

● ゆうちょう銀行、コンビニ

同封の払込取扱票をお使いください。

● 銀行振り込み

ジャパンネット銀行 すずめ支店(支店番号002)

普通預金 6271398

(口座名義) トウキョウトリツダイガクフゾク

コウトウガッコウドウソウカイ

ATMから振り込む場合およびネットバンキングご利用の場合は、振り込み人の名前を修正して、名前の前に「卒業期・クラス」を入れてください。（例＝13Aトリツタロウ）

「ホームカミングデー」の報告、いかがでしたか。今期中に「第3回」に加え、14期以前の卒業生を対象とする「特別ホームカミングデー」

今号には、多数の同窓会・クラス会・OB OG会レポートをいただき、ありがとうございます。ページ数の都合で、写真を小さくしたり文章を縮めたりせざるを得なかったこと、お詫びいたします。が、今後とも多数の原稿をお寄せいただければと思います。

編集後記



を開催の予定です。今年の第69回記念祭は、9月9日(土)10日(日)の両日です。例年通り「同窓会ルーム」をB棟2階201教室に設けます。10日の13時から、学生歌や記念祭歌を歌うイベントを行います。ぜひご参加を。

次号の同窓会報は来年6月末発行予定です。同窓会報編集委員会

35期	石川 恵子
26期	嶋津 和行
21期	根岸 之夫
18期	北原 久利
14期	川田 秀文
13期	空戸 油武
8期	須田 大春

同窓会への連絡方法

住所の変更、訃報、その他の同窓会への連絡は下記のいずれかの方法でお願いします。

● インターネット

同窓会のホームページ <http://yagumokai.org/> のトップページ左側(ご連絡) Contactボタンをクリックするとメールフォームが出ます

● 郵送

〒152-0023 東京都目黒区八雲1-1-2
都立桜修館中等教育学校内
都立大学附属高等学校同窓会

または

〒152-0002 東京都目黒区目黒本町4-23-6
空戸方 都立大学附属高等学校同窓会事務局